



波紋

一年、そして一年

— 設立して三年目をむかえました —
皆様お一人、お一人のあたたかいご理解

ご支援ありがとうございます

教育活動総合サポートセンター

理事長 井口 衛

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波紋」 第3号
発行人 井口 衛
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延1219-104
TEL・FAX: 044-877-0553
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印刷 西桜印刷株式会社

「子たちに力を

子たちと夢を」

— 過日の理事会において、全理事もう一期力を合わせることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます —

三月二十五日の理事会で十七年度の事業報告・十八年度の事業計画の概要が承認されました。内容につきましては紙面の中にありますので一読ください。このセンターのスタッフが子どもたちとともに歩んでいる姿・努力、学んでいる子どもたちの声、保護者の想いが浮かびあがっています。紙面の奥にある日々の営みの大切さをしみじみと感じられます。

ふりかえりますと、この二年間「お世話になりました川崎の教育界、地域のみな様に何か役立つことは、少しでも恩返しできていることは・・・」この趣旨に

賛同したスタッフ一人一人の「志」が「想い」があつてこそ今日をむかえられたと考えています。そしてこのわたくしたちの活動を理解され、いつもあたたかいご指導ご支援を市教委、退職校長会、各種校長会、PTA協議会をはじめ関係教育諸団体、また、施設設備の応援をしてくださいます方々の大きな力が支えになつていくこともスタッフ一同忘



れてはならないことだと思つています。このことは賛助会員・団体の数が二年目に倍増したことでも分かります。ありがたいことです。

一年、そして二年、三年目をむかえました今日、この実績を基に未来に向けた活動にも心を馳せたいと考えます。組織のよ

り一層の充実、財政の確保をはじめ課題はありますが「和」を根底にしながら力を合わせたいと思ひます。

「波紋」小さな波が確かな広がりを見せはじめています。

この歩みを大切にしたいと思ふこの頃です。

賛助会員さんへ

教育活動総合サポートセンターのこの一年間の活動は、不登校や非行など様々な不応を起こしている児童生徒・保護者を対象とした「教育相談事業」・学習支援事業「適応指導事業」、教員を目標としている大学生等を小学校の学級担任の補助として派遣している「学習サポーター派遣事業」、川崎市教育会館の管理運営と「教職員を対象とした相談事

活動会員さんへ

教育活動総合サポートセンターの活動にご協力いただき有り難うございました。皆様には「不登校や学習不振の児童生徒を対象とした相談事業・適応指導事業・学習支援事業」(休日・夏季休暇等の読書指導・相談を行う学校図書館開放事業)「学校現場で学級担任の補助・援助活動を行う教育サポーター事業」など多くの会員の皆様



業、休日に学校図書館を市民に開放する「学校図書館有効活用事業」、文部科学省から委託された「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」など多くの事業を行うことができました。これも二〇〇人を越す個人賛助会員と四〇人に及ぶ団体賛助会員の皆様の温かい援助があつたおかげだと感謝いたしております。本当に有難うございました。

* * *

献身的な奉仕をいただきました。おかげさまで校長先生やご父母の皆様からお礼と感謝の言葉をいただいております。そしてなにより児童から「ありがとう。また来てね」などの声が多かつたことは皆様の活動の素晴らしさと感謝申し上げます。

また、十八年度は「川崎市青少年の家」を生涯学習財団とともにその管理運営と事業展開を行うことになりました。会員の皆様にはさらになる支援と協力をお願いします。

18年度活動方針・事業計画

1. 活動方針

① 家庭・地域・学校及び教育関係機関等との連携を図り、計画した事業を着実に実施し、地域及び青少年健全育成に寄与する。

② 一人一人に誠意ある対応を行い、子どもたちが目標を持ち、いきいきと活動する力を育てる。

③ 諸活動の充実をめざし、活動会員の補充・拡大を図る。

2. 事業計画

(1) 学習支援

・各教科学習における基礎基本の定着補習や学力不振悩む児童・生徒等に向けての個別学習を中心とした学習支援を年間通して実施する。

・対象
小学生・中学生(高校生)

・期間…通年(月々金曜)

・時間…午後4時～7時

・場所…サポートセンター

(2) 教育相談事業

・小・中等学校の児童生徒保護者の不安や悩み、不登校・問題行動等に関する相談を相談者の要請によって電話・来所・訪問相談等を実施する。

・期間…通年(月々金曜)

・時間…午前9時30分～午後5時30分

・場所…サポートセンター

・相談受付…電話で予約

・費用…不要

17年度 校種別学習支援件数 (単位:人)

校種別	総数	現在
小・学習	9	6
小・適応	5	5
中・学習	8	5
中・適応	18	15
合計	40	31

(平成17年6月～平成18年3月)
(中・適応に高校生1名含)

文部科学省委託事業

「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」について文部科学省より、平成17年から2年間の委託研究を受けた。不登校を起している子どもたちは学校を休んでいるため勉強に対する不安が大き

く、学習の遅れから学校へ行けない。教室で勉強についていけず学校へ行くのがいやになったと訴えています。これらの子どもたちが一日も早く学校復帰できるように、個々の子どもの実態に即した効果的な学習カリキュラムや指導方法の開発や活動プログラムを開発し、不登校児童生徒及び保護者への援助と学校との連携のあり方について研究を進めている。

相談校種別件数

	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学生	24	0	4	3	4	7	6
中学生	46	12	18	16			
高校生	5	3	1	1			
その他	5						
総計	80	15	23	20	4	7	6

(平成17年6月～平成18年3月現在)

相談主訴別件数

	男子	女子	合計
学習不振	19	13	32
不登校	18	22	40
いじめ	2	1	3
障害	2	1	3
その他	1	1	2
合計	42	38	80

平成17年6月～平成18年3月現在

サポーター派遣事業

今年度、市内小学校を中心に学習支援の目的で派遣した学校は四三〇校、延派遣人数は二、一六八人を数えている。月平均では、四三校に二七人の学生を送った事になる。

これは、週2回とはいえ、市内の三分の一を越える学校に毎回四三〇～四四人の学生が活躍したということであり、市民に誇ってよい成果を残したということであろう。

お陰様で、学校現場からも学生たちからもお礼と感謝の手紙や声が多く寄せられた。

次年度も、この実績を踏まえ事業の継続化を図ることを切に願うものである。

(4) 教育活動サポーター配置事業

小学校児童の学力向上にむけ、学級担任の補佐として主に教員志望の大学生を募り、派遣要請校にサポーターとして派遣する。

・対象
川崎市立小学校

・期間…通年(週2～3日)

・時間…4時間単位

・申込…書類申請

・費用…NPO法人負担

(6) 青少年の家管理運営事業

学校・地域諸団体をはじめ青少年諸団体等と連携を図り、明るく豊かな活動を展開するとともに地域健全育成を図る。

(7) 学校図書館有効活用事業
児童生徒及び一般市民を対象に土曜・日曜を中心に小学校中学校の15校の図書館を年間87日開館するにあたり、図書館管理運営のサポーターを派遣する。

(5) 教育会館管理運営事業

教育会館管理運営事業教育会館の管理運営及び教会館内に相談コーナーを設置し、学校経営・学級経営・教科指導等の諸問題についての相談業務を行う。

(8) 文化事業

学校・地域・教育関係機関・児童生徒を対象に「講演会」を実施する。10月中旬予定

川崎市青少年の家 指定管理受託

この四月から生涯学習財団と共同で川崎市青少年の家の指定管理を受託することになりました。宿泊研修を通して心身共に健全な青少年を育成する社会教育施設であることにご承知の通りです。共同運営にあたって管理業務は財団で、事業関係はサポートセンターで一心の協定はできていますが、協力してスムーズなサービスを提供していかなくてはなりません。青少年の家フェスタやエコチャレンジ、ほのぼのスクールなど魅力的な行事も目白押しです。次代を担う子どもたちのためにお知恵拝借！ご協力ください！

発展飛躍をめざす子ら

入所第一ばん

「あなたも塾に行ったら？」お母さんはよくこう言います。口ぐせなんじゃないかと思つたこともあり。でも私は勉強がきらいなので、いつも「やだ」とことわりします。

しかし、ある日「下のマンションにサポートセンターっていうのができたから行って見ない」といつもとちがう言葉でした。

「サポートセンターって何？」

「学校の勉強で分からなくなったところをしつかり教えてくれるんだって。前に学校の先生だった人とかが教えてくれるから分かりやすいんじゃない？」たしかにわたしも勉強はやばいと思つていました。近いし行ってみようかと思つた。行く日は火曜日と木曜日です。初めての日、どきどきしながら行きました。

「まずはいつたらこんにちはって言おう。どんな先生かな」わたしはブツブツ言いながら坂をおりていきました。「こんにちは」胸がどきどきしていました。静かなところから声がきこえてきました。「こんにちは、国語を教える飯塚です。よろしくね。」「はい」

中にはいつて気づいたのは私が一人目だということでした。「まずは話をきかせて」新しい部屋の香りのする中で自

分のことを話しました。

算数の担当は時先生でした。算数は苦手だったのですごくきんちようしました。でも最初はパズルのようなことをしたので楽しかったです。

今まで二年間サポートセンターで勉強し、分からなかったところも分かるようになってすごく楽しかったです。

でもやっぱり勉強はきらいなのでめんどくさいと思うことがあります。中学になったらしつかり集中して勉強がしたいです。

(小6・M・E)

センターにて学習するわが子に思う

軽度な知的障害の中二の息子が通うような塾は少なく、今まで色々調べて入塾させてもらいました。物事の好き嫌いがハッキリしている息子にとっては、窮屈に感じ、ほどなくして辞めてしまう事の繰り返しでした。小学校まではそれでも私が横について宿題など見ていましたが、親子だけになかなか上手に教えられず、本人からは「疲れた」「眠い」と言われる始末。

親の心、子知らずと言ったところでしょうか。

このままでは勉強嫌いになってしまふ……何とかしなければと言ふ焦りでいっぱいでした。中学生になって同級生の親から「サポートセンターに相談してみてもいいか。」

大きな進歩を感じる

ぼくは、勉強に不安があり、自信が持てませんでした。そんなときお母さんからサポートセンターのことを聞きました。ぼくは、自分に自信をつけるためにサポートセンターに通い始めました。ちょうど5月ごろでした。

初めのころは、お母さんの車でサポートセンターに通っていました。が、今では、一人で電車に乗ってサポートセンターに通えるようになりました。こんなちよつとしたことでも自分にとっては、大きな進歩だと思えます。

ぼくが、サポートセンターで習っている教科は、国語と算数と英語です。

将来の夢

サポートセンターに通うようになって、一年半が過ぎました。ここに来る前は学校の勉強についていけず、自分でどうやって勉強してきました。音読も一人で読むと飽きるだろうと、交互読みで楽しく学習する工夫をして下さったり、漢字もかなり読み書きが出来るようになり、中学校の先生方にも誉めていただいているようです。

又、以前に比べて、語彙も増え会話の幅も広がったように思われます。おそらくサポートセンターで教えていただいている内容、とりわけ音読や交互読みを繰り返す事がしやべる言葉を増やしているのでしょう。

高校進学を目指す大事な一年を今のペースで引き続きご指導いただければ幸いです。

先生方にはいつも感謝の気持ちでいっぱい입니다。有難うございます。(中2母・T・K)

語です。どの教科の先生も優しく丁寧に教えてくれるので勉強がよく分かります。

それに、サポートセンターは、一対一で勉強を教えてくれるので勉強がはかどります。

これからも、サポートセンターに通い続け、サポートセンターで学んだことを忘れずに、中学校に進みたいと思います。(小6・S・I)

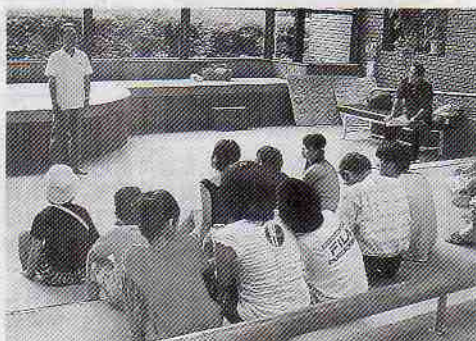
将来の夢

サポートセンターに通うようになって、一年半が過ぎました。ここに来る前は学校の勉強についていけず、自分でどうやって勉強してきました。音読も一人で読むと飽きるだろうと、交互読みで楽しく学習する工夫をして下さったり、漢字もかなり読み書きが出来るようになり、中学校の先生方にも誉めていただいているようです。

又、以前に比べて、語彙も増え会話の幅も広がったように思われます。おそらくサポートセンターで教えていただいている内容、とりわけ音読や交互読みを繰り返す事がしやべる言葉を増やしているのでしょう。

高校進学を目指す大事な一年を今のペースで引き続きご指導いただければ幸いです。

先生方にはいつも感謝の気持ちでいっぱい입니다。有難うございます。(中2母・T・K)



ればいいのか分からなくてとても苦勞していました。けれど、ここに来るようになってからは勉強のやり方を先生方に教えてもらうことができるようになりました。私の母はアメリカ人で家庭では主に英語で話しています。日本語は英語より難しいと思います。そんなわけでセンターでは、国語の勉強をしています。漢字を書いたり、意味を調べたりしています。その時は分かるのですが、忘れてしまうこともあります。また、数学の勉強もしていますが、日本語に慣れば、数学の問題も早く正確に解けるようになるのではないかと思っています。

私は将来、日本語と英語、両方の言葉を使って話せるような仕事をめざしています。このセンターでの学習が、私の将来に役立つと信じて、これからも頑張っていきたいと思っています。(中2・E・I)

相談活動にあたって

平成17年度の教育相談活動は、電話相談、来所相談、家庭訪問相談、その他出張相談等、それぞれの件数に増加がみられました。これは、サポートセンターの活動が、市内の方に知っていただけるようになり、関係機関(学校、教育センター、児童相談所等)からの紹介による、相談申し込みが多くなったからです。また、相談内容、相談方法も多岐にわたるようになりました。例えば、不登校状態のAさんは、個別の相談や相談的配慮のある個別の学習活動を続けていました。学習活動では課題に対する達成感を得ることができたため、少しずつ学習活動が活発になり、意欲的な行動がみられるようになりました。その中で学習に対する自信が芽生え、自分の意思を言葉で伝えられるようになってきました。

このAさんのように、意欲的な行動がみられる状態になった子どもも同士が、学習の合間に相談員を交えて会話する機会が自然と多くなり、グループを作って外へ出かける活動へと広がっていきました。初めは、近くの東高根森林公園への散歩、そして、交通機関を利用して鎌倉散策を、また、修学旅行で行けなかった日光へも日帰り旅行と発展していきました。

さらには、近くの青少年の家を活用した、宿泊を伴う集団活動へと活動の内容、方法に大きな変化がみられました。この活動は、子

ども同士が役割を分担して、話し合いを行い、みんなで遊ぶ内容を考え、計画されました。中でも、ブレイルームでのドッジボール、いす取りゲームなどを行った時、子どもたちが体を動かして、緊張感がほぐれて、子ども同士の和やかな雰囲気にも包まれている感じが伝わってきました。

参加したAさんは、感想文に「こんな楽しい思いをしたのは初めて」とうれしそうに話していたのが印象的でした。Aさんは、進路も自分で選んで、高校入学試験のため担当外の相談員にも面接の練習を自ら頼み、対人関係を学ぶ中で、Aさんの自己肯定感と生活意欲の高まりを感じました。

この事例から、子どもの状態に応じた多様な、取り組みをする相談活動、学習活動を一層創造的に心がけていきたいと考えています。

(片山 世紀雄)

個に応じた学習支援を

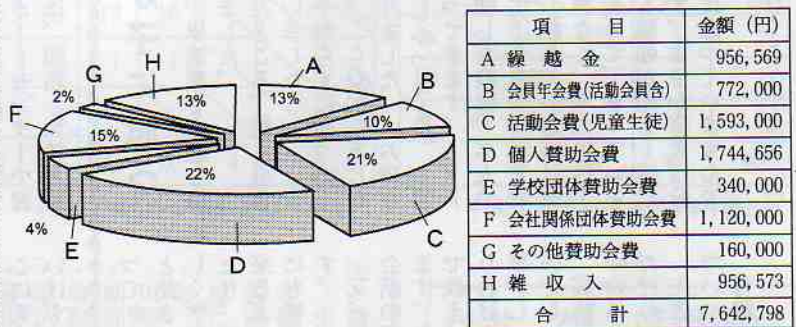
Aくんは大きな声で「先生きたよ」とやっています。分数の通分と約分ができるようになりました。ゆっくりなものでつい教えてしまうことがありましたが、歩みは遅くとも確実に計算できることがわかって私も待つことを学びました。

Bくんは薬を飲んだ時刻によって体調が違ってきます。好調の時はおしゃべりしたり計算もじっくりできますが、時には無気力で集中できない日もあります。それが多くなくなりました。

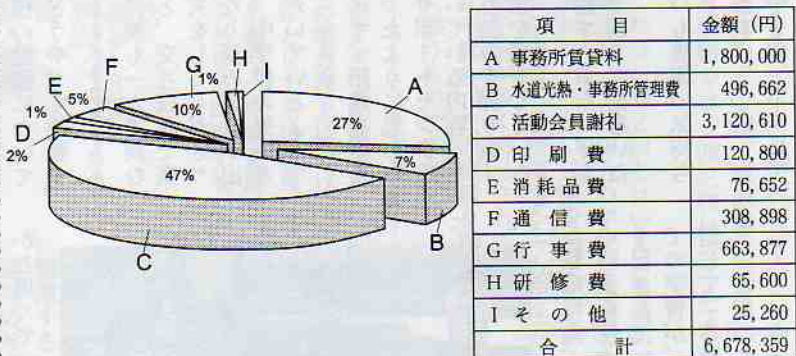
Cくんは私立中学の入試の勉強に午前中自習しています。難しい問題で教えるというより一緒に考えています。学級でいじめられ

財政の状況(平成17年度)

平成17年度における収支(3月15日現在)は次の通りです。



収支は、賛助会費(個人、学校団体、会社、その他の賛助会費を合算)が、約43%をしめています。



支出は、子どもたちの学習や相談に対応した活動会員等への謝金が約47%をしめます。次いで、事務所賃貸料が約27%、行事費(講演会、宿泊体験教室)が約10%、水道光熱・事務所管理費が約7%、通信費が約5%となっています。17年度も多くの方々にご支援をいただきましたが、まだまだ財政的には厳しい状況です。

18年度は、子どもたちへのかかわりをより充実したものにするためにも、財政面の安定に努めてまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

編集後記

◆大きな声で「先生！きたよ」桜の春の明るい希望と重なります。◆私たちが活動を始めて2回目の春。スタッフ一同新たな決意で新年度のスタートです。◆「ほんとに助かってます！」教育活動サポーターの派遣先から喜びの声が寄せられます。要請校の増加から市内各小学校での教育対応の多様化と困難さもうかがえます。◆「子どもたちに力を」を活動理念に掲げて「相談」「支援」「体験」「指導」等幅の広い活動を展開する私たちの努力が着実に実を結びつつある喜び

を実感します。◆「私が私で良かった」どの子にも持つてほしい「自分らしさ」の喜びです。WBCで王ジャパンの世界一の歓喜の中で叫んだ若者の「日本人で良かった！」に通じます。◆「相談して良かった」サポーターセンターへきて良かった。：そうです、小6Mさんのレポート「まずは話を聞かせて」新しい部屋の香りの中で、自分のことを話しました。だれもが「良かった」をめざせばいいのです。

◆新年度のスタート、新たな賛助会員、活動支援の申し出を期待します。いただくご支援の大きさがそのまま、子どもたちへのかかわりの充実につながるのです。